

自主防災組織で対応

黒宮淳元（副会長・第二支部長・旭町）

自分たちの地域は自分たちで守る

旭町自主防災組織の会長をしています。市役所の危機管理課とは「ちよいちよい」打合せをして対策を練っています。防災組織は、4年前に町内を流れる冷谷川が氾濫して床上浸水になったことを教訓にして立ち上げました。「地域の人の安全を守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」ということで、「逃げ遅れゼロ」を目指して立ち上げました。はじめに旭町3丁目のハザードマップをつくりました。地域の避難所は南中になっていますが、行けない人もいますので、自治会公民館を避難所にし、医者は土谷医院の先生にお願いしてあります。



第二公園の池

大栗利夫（本部役員・万町）

避難の情報伝達は的確に

寝たきりの人、体の不自由な人などのため、町内の各別別（20班）に責任者を置いて、班内の状況を常に把握しています。「避難心得」をつくり「救出者宅のガスの元栓（火の元確認）、施錠、日常服用している薬」など、責任者に承知してもらっています。もちろん、公民館には担架が5つ用意してあります。また、町内の浸水しやすい場所5カ所も「心得」に書いてあります。避難解除後、介助を要する避難者を送り届ける時も、避難者宅の安全を確認することに なっています。旭町の要望は次のとおりです（町内全体の願いです）。

①巴波川の川底を少しさらって深くしてもらいたい。
②今回は氾濫「ぎりぎり」だったので李冷川もさらしてもらいたい。
③第二公園の池の石垣を2段くらい上積みしてもらいたい。
④町内を流れる曲がりくねった川（側溝）が氾濫するのでさらってもらいたい（暗渠の詰まりの解消も含めて）。
⑤備蓄する土のう袋がもう少しほしい。

しっかりとしなければ
地域の産業が埋没
野田尚吾（特別顧問）
今回は甚大な被害であり、地域ごとに状況も違うので、軽々にまとめるわけにはいきませんが、日向野県議がやってくことを申しあげたい。
災害の復旧という概念だけでなく、減災・防災の概念を行政も政治家諸君も持つべきである。復旧ということになれば、元に戻すことになるわけですから、減災・防災の概念を確立しておくべきであると考えています。気象庁では「自分の命は自分で守って下さい」と発信します。根本はそこにあります。日常活動の「自助」です。
地域のみならず考える「共助」であります。現在の状況をどう打開するか、たとえば災害ゴミをどうするか、という活動をするのであります。

大豆生田昇治（第七支部長・柳橋町）
市は自主防災組織の把握を

柳橋町は永野川の氾濫にやられまくった。自宅は床上12〜13センチだった。防災に関する勉強（研修）は常にしていたので、浸水前に畳を上げてテーパーに載せ、障子も外してその上に乗せ、そして、冷蔵庫も上げました。必要な書類も棚の上に乗せたので水をかぶることはなかった。倉庫3棟については、そのままにしたので中のものはダメになりました。市からスマホに緊急連絡が入るのはいいことだが、水の中を避難しろと言っても無理なので、自治会独自で、2階のある家に避難するように対応しました。市は、自主防災組

未来ネットワーク通信

2020年2月増刊号

編集・発行 ひがの義幸後援会総連合会
発行日 令和2年（2020）2月11日
編集責任者 高田 良久
事務局 〒328-0075 栃木県栃木市箱森町7-9
TEL 0282-23-8855
FAX 0282-23-8856
E-mail info@higano.jp

織を常に把握しておくことよ。
被災後、自治会の皆さんからの問い合わせが多かったことは、消費、仮置きゴミの収集だった。また、流入したワラの片付けも困った。自宅だけで70袋にも及んだ。

が、皆さんが喜んでくれました。チームで活動する場合は指揮命令系統がはっきりしません。自治会、市、県から、「どう動くべきか」の指示があれば、「よりよい」活動が出来ると思いますので、市議、県議には考えていただきたい。
最後に「公助」でありますがお金がかかることでもあります。市、県、国で、対応していくことが「公助」であります。
問題があります。後援会としては「きつちり」と、とらえ直しておかなければならないと思います。農業被害（作物・施設・機械）で、農家は、これから再生できるのか、高齢者が果たして農業に従事してゆくことが出来るのか、これらに、政治がどうかかわっていくべきなのか。
中小企業対策。企業は、IT機器が水をかぶったために使えなくなり青くなっています。どういふ政策で、これらに対応していくのか、しっかりとしなければ、地域の産業が埋没してしまいます。
私は、ゾーンデフェンス、「地域のこととは地域で守っていく」という考えを踏襲していきたくて考えています。



台風19号 災害対応

緊急役員会

日向野義幸後援会では、2019年10月12日に伊豆半島に上陸して、関東地方や甲信地方、東北地方に甚大な被害をもたらした台風19号に対応するため11月1日に緊急役員会を開催しました。

日向野県議から、二次災害防止の応急措置を直ちに行ったことなどの災害対応が報告されました。

高田良久後援会長挨拶

本日は台風19号の災害について「これからどうする今までのようなやり方では駄目だ」ということで、会議のテーマは、被害状況の把握、復旧手法、今後の対策等についてご意見を伺いたい。

日向野義幸県議挨拶

10月12日に発生いたしました台風19号では、栃木県も甚大な被害が発生いたしました。栃木市においても多くの皆様被害にあっております。床上浸水が7000棟、床下浸水が6800棟と推定されております。

私も、栃木県及び栃木市の復旧・復興に向けて、汗をかかせていただいております。被害状況の確認につきましては、支援の市議の皆様と共に、関係地域の現場を確認して、二次災害が起らないよう、復旧に向けた応急措置を直ちに講じるよう関係機関に要請をしたところであります。今後、後援会の皆様から地域の情報をいただいで、しっかりと、県・市につないでまいります。これから災害ゴミの片付け等、行政として

は、手厚い生活支援体制を構築することが当面の大きな課題であります。ゴミの問題は早急に対応しなければなりません。
栃木県全体で12万トンが排出されると予測されており、うち栃木市のゴミは3万8千トンということになります。
栃木市のゴミは、まだ出る（事業系のゴミ）と思われ、最終的には5万トンを超えることになり栃木市の処理能力では処理が難しい状況であります。
福田知事からは、一年間で処理したいというコメントがありました。県議会といたしましても、環境省に対し被害を受けていない自治体に「協力の要請をしてほしい」と要望をしたところであります。
今後とも皆様と共に、被害者の皆さんに寄り添い対応してまいります。
※栃木市の浸水被害当初発表は、空撮による見込み件数です。最新の発表件数は、床上浸水3916世帯、床下浸水4000世帯です。また、災害ゴミの発生量は、推計で69430トンです。

台風19号の災害対応

栃木市内の被害状況報告

大谷好一（後援会事務局長）

配付資料「台風19号関連状況報告（第15報・令和元年10・28 12時現在）」により、下記の項目について説明がありました。

- 気象の状況・降水量
- 注意報・警報の発表
- 市の体制・会議及び避難情報
- 被害概要
- 避難所
- 消防団の活動状況
- 災害支援の状況
- 災害救助法（12日適用決定）
- 被災者生活再建支援法（25日適用通知）

栃木県の災害対応報告

日向野義幸（県議会議員）

配付資料「台風19号災害対応経過（10月31日）」

日までの状況」を中心に、県、及び、日向野県議の災害対応について報告がありました。主な報告事項は次のとおりです。
○県議会に災害対策本部を設置して、執行部との情報共有により災害対応にあたった。
○10月12日から災害現場の確認作業を始め、二次災害の可能性のある箇所を速やかな「応急工事」の対応を行った（土木事務所と打合せ）
※河川堤防の復旧は、ほぼ完了している。
○災害箇所の本復旧は、単なる復旧ではなく「改良復旧」とすることになった。
○自衛隊災害支援部隊活動に関して県土整備部を通して調整を行った。
○県選出自民党国会議員への緊急要望（10月16日）
○栃木県建設業協会に対し500名規模の災害ボランティア動員要請を行った。
○栃木県全体が、激甚災害の適用になり9%の補助率に加えて3%の上乗せもある地域となった。
○栃木県の災害予算額は1000億円規模になる見込みだが、緊急復旧以外は3・4年かけて対応することになる。



日向野県議の災害対応報告

未来ネットワーク通信

特集・緊急役員会

2020.2

日向野県議と連携して災害対応

日向野県議支援市議会議員からの報告



中島克訓 議員

都賀は、赤津地区（赤津川・逆川沿い）に被害がありました。赤津川につきましても、堤防のコンクリート部分の裏側がえぐられて流されてしまった。また、支流逆川でも、蛇行の影響から6カ所でコンクリート護岸だけが残った状況であります。都賀地区では田畑の冠水だけで、浸水被害はありませんでしたが、吹上地区細堀で、4年前と同じ浸水被害を受けています。「もう、ここには住めない」という人もおりました。

河川の蛇行が原因で決壊した箇所もありますので、復旧は改良復旧でお願いしたいと思います。日向野県議のお陰で復旧工事はすべて終わっています。

福富善明 議員

いつも申しあげていることですが、藤岡町は上流の水を受けるところでございませう。今回は「渡良瀬遊水地が東京を守った」ということで絶賛のお褒めをいただきました。永野川が両毛線の鉄橋付近で決壊し、その水が太平、岩舟を回って藤岡まで達して赤間地区が浸水しました。また、上流から流れ着いた稲わらが邪魔をして西前原排水機場の排水能力が低下しました。その稲わらですが、県道に散乱していたものは現在きれいになっています。県議のお陰です。

要望

- ・上流地域の都賀、西方地域に調整池を整備してほしい。
- ・山づくりは、保水性のある広葉樹（ナラ・クスギ）の植林をお願いしたい。
- ・年々降水量も増加しているので、西前原排水機場の能力アップを図っていただきたい。



渡良瀬遊水地

冠水する蛙沼浄水場の移転、あるいは、藤岡の上水供給体制を検討していただきたい。渡良瀬遊水地の貯水容量の拡大を図っていただきたい。

日向野県議・回答

渡良瀬遊水地の貯水量増加のための掘削工事は現在行われている。引き続き工事促進を図ります。

浅野貴之 議員

岩舟地区では、三杉川、蓮花川、静和川、静戸川の4河川で越水による浸水被害がありました。4河川流域の被害状況ですが、床上浸水30棟、床下浸水10棟でありました。その他、小野寺地域で山崩れにより家屋が全壊する被害がありました。その際負傷者が1名出しております。

要望

- ・三杉川の改修（浚渫）遊水池の整備をお願いしたい。



氾濫した柏倉川

大谷好一 議員

皆川地区を重点にご報告申し上げます。永野川ですが、大皆川町対嶺橋下流の左岸、岩出町大砂橋下流右岸で決壊がありました。柏倉川関村橋下流、久保山橋左岸付近で土砂が田んぼを埋め尽くしました。皆川城内町の左岸で決壊がありました。

藤川の柏倉町明神前で越水。皆川城内町新開橋上流で越水があり栃木佐野線沿線の両側で床上浸水と汚泥の侵入がありました。汚泥によって側溝が詰まったため、県議をおして栃木土木事務所に要請したところ速やかに対応していただきました。

赤津川では新井町で落橋が2カ所ありました。市管理の大倉川、奈良田川では数多くの越水、決壊がありました。その他多くの農地が土砂で覆われました。

日向野事務所では、皆さんから要請のあった災害対応について、県管理については栃木土木事務所保全部長に、市管理については、道路河川維持課・農林課に陳情を行いました。

山田茂男 (皆川支部長)

柏倉川は、4年前と同じところが決壊し氾濫した。今回は抜本的な改良復旧をしてほしい。

農地についても、土砂の流入、土手の崩壊等の範囲も大きい。いつ頃までに復旧するのか、地域の皆さんが心配しているので、出来るだけ早く対応して、皆さんの心配を取り除いてほしい。

神戸透 (本部役員・国府)

今回の災害では、2万5千台の自動車被害にあっている。また、稲わらの流出による被害が大きかったように思う。稲わらは土に返すことが基本だが、野焼き禁止の「しほり」を議会でも検討してほしい。

また、河川の砂利採取をする場合、川底を「さらい」すぎる、底の土（コピ）が出て流されることになる。考えていただきたい。

市内各地の災害状況と意見・要望

野田尚吾 (太平町)

大平ですが、永野川が下皆川で70メートルの決壊、川連でオーバーフロー（越水）。牛久の柚井木川で氾濫がありました。

かつて経験したことのないことが起こったわけですが、永野川の越水で両毛線の一部で敷き砂利が流失、線路が浮いている状態になりました。

ショッピングモールの最初の建物がカインズホームですが、その北側に大きなダムが出来ました。水勢が増して建物を突破した水が商品を押し流しながら、富田地区から藤岡まで流れ下ることになりました。

特に、県道栃木藤岡線と両毛線の間で、建物の浸水被害が発生しました。

田畑には、線路（両毛線）等の土砂が流入しており、復旧には、かなりの時間がかかると思われま。

特産のイチゴも年内の出荷は出来ない状況であり、ニラもハウスが損壊していることから影響が出ています。中小企業においても、機械器具が水に浸かり使い物にならないものが多く出ています。被災農家、企業にあつては、廃業・撤退の瀬戸際に立っている状況です。

日向野県議・回答

- ・国は、農地復旧の土砂の撤去、覆土に対して補助を入れる方向で検討している。
- ・復旧工事はあくまでも市が事業主体となつて取り組むことが前提になる。
- ・収益補償は令和2年度から対象。

関口茂一郎 (副会長・皆川)

皆川地区の被害箇所（田んぼの土手など）は数百カ所になる。これらは、来春までに復旧が可能なか。水田に流れ込んだ土砂の撤去などの見通しはどうか。農地の復旧工事補助、農業共済の他に農作物の被害補償はあるのか。

日向野県議・回答

- ・国は、農地復旧の土砂の撤去、覆土に対して補助を入れる方向で検討している。
- ・復旧工事はあくまでも市が事業主体となつて取り組むことが前提になる。
- ・収益補償は令和2年度から対象。



柏倉川越水で冠水した農地

白井義雄 (第四支部長・城内町)

巴波川・城内町、神田町は比較的高いので水害はないが、下水が逆流して水洗トイレが使えない状態になる。また、下水のマンホールから水が「噴き出る」状況になる。改善できないのか。

日向野県議・回答

- ・下水処理場への接続が無理な状態になっているため、巴波川が満水になると、逆流することになる。現在の放流箇所を水位の低い「下流への変更」を検討しているところです。

令和元年台風19号

災害救助法適用自治体は過去最大

令和元年台風19号は、2019年10月6日マリアナ諸島東海上で発生し、12日に日本の伊豆半島に上陸した台風である。

関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした。

台風19号は気象庁が定めた「台風の名称を定める基準」の条件に相当する見込みとなり、沖永良部台風以来42年ぶりに命名される見通しとなった。

政府はこの台風の被害に対し、激甚災害、特定非常災害（台風としては初）、大規模災害復興法の「非常災害（2例目）」の適用を行った。また、災害救助法適用自治体は14都県の390市区町村であり、東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）を超えて過去最大の適用となった。

台風の動き

台風19号は平年より高い海水温の領域を通過しながら急速に発達し、発生からわずか39時間で中心気圧915hPaとなり猛烈な勢力に発達した。

勢力を維持したまま、12日19時前に静岡県伊豆半島に上陸した。上陸直前の中心気圧は955hPa、最大風速は40m/sで、その後は関東地方と福島県を縦断し、13日12時に三陸沖東部で温帯低気圧に変わった。

雨の状況

台風19号の接近に伴い、栃木県では10月11日から13日朝にかけて雨が降り12日夜ピークとなった。10月11日0時から13日9時までの総降水量は、奥日光で512.5ミリ、足尾で438.5ミリ、など山間部を中心に大雨となった。

栃木市上流、及び、近隣地域の総雨量（単位mm）は次のとおり。

奥日光	足尾	土呂部	葛生	今市	鹿沼	栃木	佐野	小山	足利
512.5	438.5	424.5	416.5	400.0	375.5	305.0	267.0	218.5	257.0

気象状況

台風の接近により、関東甲信地方、静岡県、新潟県、東北地方では、各地で3時間、6時間、12時間、24時間の降水量が観測史上1位を更新するなど、記録的な大雨となった。